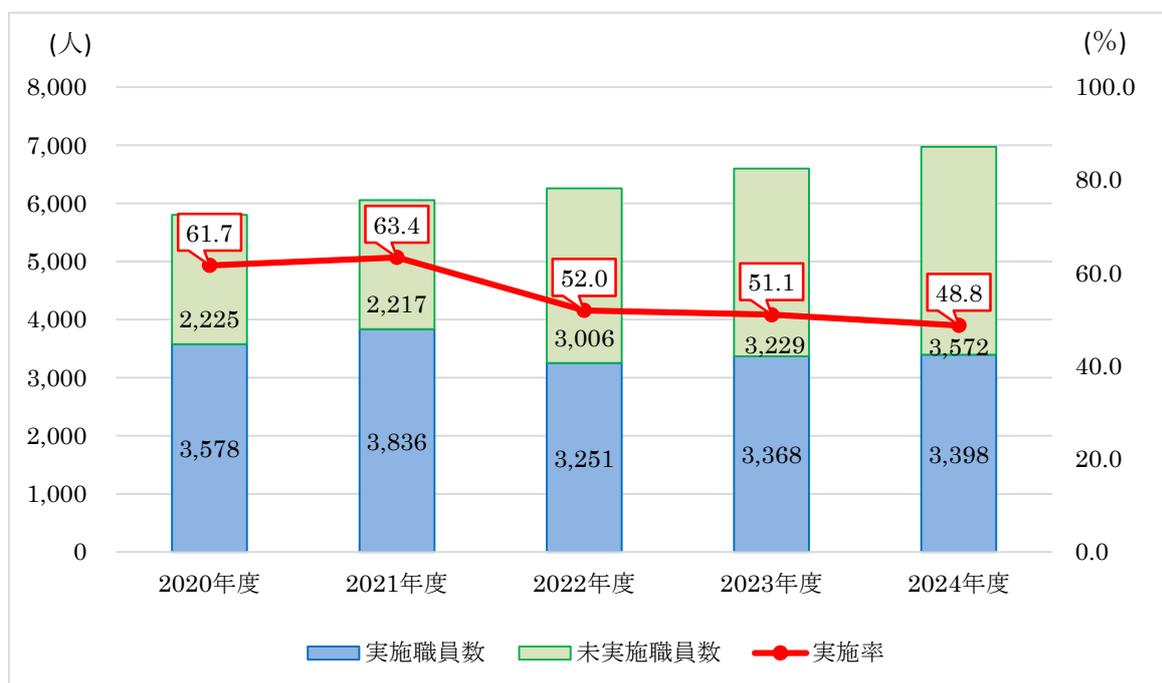


職員のインフルエンザワクチン予防接種率



健康管理部では、全職員がインフルエンザワクチンを接種できるように計画し、案内しているが、2024年度のインフルエンザワクチンの接種率は、48.8%であった。(院外で接種する職員は除く)

健康管理部が実施したインフルエンザワクチンの予防接種率は、2022年度より低迷しており、原因は、新型コロナウイルス感染症の流行後、マスクの着用が定着したこと、インフルエンザへの警戒心が薄らいだことと推測する。

病院で働く職員のインフルエンザワクチン接種率は、患者の安全にかかわる問題であり、職員は注意を払わなければならない。また、職員が罹患した場合、人員不足を招くことから業務が制限され、診療に対しても影響を及ぼすことになる。予防接種率を上げることは、罹患の可能性が減少し、重症化も抑制されると考えるため、インフルエンザワクチン接種を推奨していく。